

職業実践専門課程として認定する専修学校の専門課程の推薦について

文 部 科 学 大 臣 殿

令和5年7月31日

下記の専修学校の専門課程を職業実践専門課程として認定する課程として推薦します。

記

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地			
盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校		昭和61年12月26日	工藤 昌雄	〒 020-0021 (住所) 岩手県盛岡市中央通3丁目2-17 (電話) 019-622-1500			
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地			
学校法人龍澤学館		昭和38年3月14日	龍澤 尚孝	〒 020-0025 (住所) 岩手県盛岡市大沢川原3丁目4-1 (電話) 019-622-6357			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
工業	工業専門課程	情報システム科	平成 7(1995)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的	今後更なる発展を遂げるIT社会において、システム開発を取り巻く環境も大きく変化しており、システム開発能力の他、今後日本の開発者にとって必要とされるマネジメント能力や外部交渉力等を兼ね備えた人材を育成することで、日本の産業や社会の発展に貢献することを目的とする。特に地域のIT業界の企業・団体の要望を的確に把握し、連携を図りながらプログラム開発やシステム設計、チーム開発を行うことでより実践的な能力の育成を目指す。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	経済産業省情報処理技術者試験のレベル2相当を中心とした各種資格試験(例:基本情報技術者、ITパスポート、LPI-Japan LinuC、J検定、Javaプログラミング能力認定試験など)の受験合格対策とともに、実務を意識した演習による関連技能の修得を目指す学科である。卒業後は大学3年次への編入も可能であり、例年一定数の編入学進学者も輩出している。なお、令和4年度の中退率は5%である。						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,700 単位時間	500 単位時間	1,140 単位時間	60 単位時間	— 単位時間
			— 単位	— 単位	— 単位	— 単位	— 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)				
100人	115人	0人	0%				
就職等の状況	■卒業生数(C)		58	人			
	■就職希望者数(D)		53	人			
	■就職者数(E)		48	人			
	■地元就職者数(F)		13	人			
	■就職率(E/D)		91	%			
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		27	%			
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		83	%			
	■進学者数		4	人			
	■その他						
	上記の進学者はいずれも大学3年次への編入						
(令和 4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)							
■主な就職先、業界等		(令和4年度卒業生) アイリスオーヤマ株式会社、岩手インフォメーション・テクノロジー株式会社、株式会社テクノプロエンジニアリング、TDKエレクトロニクスファクトリーズ株式会社ほか					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無				
	※有の場合、例えば以下について任意記載		評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL				
当該学科のホームページURL	盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校ホームページ URL: https://morijyobi.ac.jp/						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)						
	総授業時数		1,760 単位時間				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		60 単位時間					
うち企業等と連携した演習の授業時数		420 単位時間					
うち必修授業時数		1,700 単位時間					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		60 単位時間					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		420 単位時間					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		30 単位時間					
(B: 単位数による算定)							
総授業時数		— 単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		— 単位					
うち企業等と連携した演習の授業時数		— 単位					
うち必修授業時数		— 単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		— 単位					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		— 単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		— 単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		0人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		4人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		2人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人				
	計		6人				
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		4人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程の編成を行うにあたり企業等と連携する上では、まずは本校の教育理念である「社会の発展に貢献すべく、現代社会や産業界が求める人材の育成を行うことを目的とする。そのため、資格取得のみならず、社会的常識と教養を備え、明るく健康的で建設的な考え方をもち、社会人として求められる『主体性』『課題解決力』『実践力』を備えた『気づき、挑戦し続ける人材』の育成に努める」ことの重要性に共感いただき、次代を担う人材の育成を、企業等と学校が共に行っていくことに賛同いただける企業等と連携することを基本方針とする。

連携企業等には、各業界の最新技術や知識ならびに今後の動向等について情報を提供いただくことはもとより、学生が実際に各種開発や制作、課題解決等に取り組める機会を数多くご提供いただけるよう働きかけていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は間接的な関係部門として位置づけ、教育の質を維持・向上させ、各業界における実践的教育を行うにふさわしい授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫等を行う上で必要な助言を行うものとする。

なお、教育課程の編成においては、教育課程編成委員会における協議内容を十分に活かしつつ、あくまで本校教員が主体となって行い決定するものとする。主には、前年度の第2回委員会において検討された内容・助言を今年度に活かして授業等を進めていく中で、新たな課題等が出てきていないかを今年度の第1回委員会で検討し、次年度カリキュラムの構想に活かす。最終的な次年度カリキュラムの決定は、理事会の承認を経て行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
成島 信夫	岩手県情報サービス産業協会	2023年4月～2025年3月(2年)	①
蔵本 俊秀	株式会社IBCソフトアルファ	2023年4月～2025年3月(2年)	③
工藤 昌雄	盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校		
小林 史朗	盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校		
細川 潤哉	盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校		
樋口 正之	盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校		
高橋 洋平	盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校		
高田 利恵	盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校		
大坪 直之	盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校		
松高 久美子	盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校		

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年に2回(毎年6月ならびに2～3月)開催することとする。但し、必要に応じて臨時委員会を開催することがある。臨時委員会の開催が難しい場合は、ヒアリングやアンケートで代用することとする。

(開催日時(実績))

令和4年度 第2回 令和5年3月 9日 16:00～17:00

令和5年度 第1回 令和5年6月30日 16:30～17:30

令和5年度 第2回 令和6年2月28日 16:00～17:00(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

システム開発実践においては、開発業務の一連の流れを経験できるだけでなく実際の社会課題の解決に取り組める貴重な機会になっていることから、学生がそのことをより強く意識して取り組めるよう指導にあたることを確認している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

講義型の科目において学んだ知識を活用して実践的な技術力ならびにコミュニケーションスキルの向上を目的に行う演習・実習型の科目について、企業等と連携した授業を実施する。また、この連携授業を通して学生が専門分野の社会的重要性を実感し、仕事を通じて地域貢献・社会貢献を行うことの意義を理解することができるようキャリア形成支援に活用する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業講師による業界講話をきっかけに、学生一人ひとりが希望する職業業界における様々な職種や開発技術、業界企業の特徴について研究する。レポートやプレゼンテーションの成果をもとに総合的に評価を行っていただく。また、卒業研究の一環としてシステム開発の企画・設計・開発・レビュー・報告を行うにあたり、実務レベルでのアドバイスをいただくとともに、成果物ならびにプレゼンテーションについて総合的な評価を行っていただく。

(3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
キャリアデザイン I	IT業界の様々な職業の業務内容や業界動向等の情報収集を通じて、即戦力として活躍するために必要となる技術や能力等を学習することを目的とする実践的な講義・研究を行う。	KCCSキャリアテック株式会社
システム開発実践	基礎知識を体系的に学習した学生が、企業の即戦力になるべく実践力を向上させることを目的としたWeb開発やネットワークシステム構築、システム開発演習を行う。一連の経験を通して、実務レベルでの要求定義、システム設計、実装、レビュー工程についての知識を身につけ、仕事に対する心構え等の意識づけや自ら情報発信できる人材育成を行う。	ICONS イルト合同会社 株式会社 ゴーイング・ドットコム ほか6社
テーマ別専攻	これまでの学習成果を踏まえ、総合的に自身の技術レベルを把握する機会とする。企業が求める技術レベルを意識し、さらなる自己研鑽を継続するための意識を醸成する。	444株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校・本学科の教員として必要な知識、技術、技能や授業および、学生への指導力について計画的に教育し、向上させることを目的に、校内・校外において実施される研修等への参加機会を積極的に設けることを「盛岡情報ビジネス専門学校教育研修規定」により定め、組織的に取り組んでいく。ここでいう研修等には、企業・団体等から講師を招いて学生で行う研修や、学外で企業・団体等が主催して行われる研修等への参加だけでなく、自己啓発活動への援助も含む。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	Spring BootではじめるWebアプリケーション開発	連携企業等:	株式会社アイ・ラーニング
期間:	令和4年8月22日(月)～23日(火)	対象:	開発従事者・教育関係者
内容:	Webアプリケーションの基本を理解したうえで、Spring Bootの特長を踏まえたDBアクセスを伴うアプリ作成手法を学ぶ		
研修名:	UI(ユーザーインターフェース)設計力向上研修	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	令和4年11月16日(水)	対象:	開発従事者・教育関係者
内容:	良いUI,悪いUIの事例を比較しながら、ユーザー視点とシグニファイアの重要性を学ぶ		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	Adobe Education Forum 2022「未来をつくる教育のDX」	連携企業等:	アドビ株式会社
期間:	令和4年8月2日(火)～4日(木)	対象:	大学・専門学校教職員
内容:	「クリエイティブ・デジタルリテラシー」をキーワードに、学生達の可能性を最大限にひきだし、新しい価値を創造する力を育む教育について考える		
研修名:	発達障がい基礎研修	連携企業等:	岩手県立発達障がい者支援センター
期間:	令和4年10月28日(金)	対象:	支援・相談業務従事者
内容:	「発達障がいの理解」に関する基礎知識とともに「発達障がい特性がある方への対応方法」について学ぶ		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	デジタル化の促進	連携企業等:	独立行政法人国際協力機構
期間:	令和5年9月25日(月)～27日(水)	対象:	国際協力従事者・教職員
内容:	国際社会におけるデジタル化を推進する上で必要とされる知識・技術の向上を目指す		
研修名:	Power PlatformによるローコードAIアプリ開発入門	連携企業等:	岩手ソフトウェアセンター
期間:	令和5年11月8日(水)～9日(木)	対象:	プログラミング経験者
内容:	Power AutomateとPower Appsの基本について学んだうえで、AI Builderを利用し、学習済みのAIモデルの使い方と簡易なAIアプリの開発に挑戦する		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	発達障がい基礎研修	連携企業等:	岩手県立発達障がい者支援センター
期間:	令和5年9月27日(木)	対象:	支援・相談業務従事者
内容:	1.「発達障がいの理解」 2.「発達障がいのある方との関係づくり」		
研修名:	休退学防止に向けての心理学的対応	連携企業等:	全国専門学校教育研究会
期間:	令和6年3月(予定)	対象:	専門学校教職員
内容:	休退学防止のための心理学的な対応方法について学ぶ		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者として企業等から参画いただいた委員を含む学校関係者評価委員会を設置して、実務に関する知見を活かして教育目標や教育環境等について「自己点検・評価」の結果に基づく評価を実施し、その評価結果を教育活動その他の学校運営の改善に活かしていく。これを定期的に行うことにより、地域で必要とされる人材の育成のための教育の質の向上、学生支援、卒業後支援、社会活動等の充実とともに、健全かつ安定した学校運営を図ることを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・教育理念(建学の精神)、目的 ・教育目標、人材育成像が社会・業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	・学校組織としての管理運営体制が確立されているか
(3) 教育活動	・教育理念に沿った教育課程が編成されているか ・業界ニーズに対応した実践的活動になっているか ・教員の知識・技能、指導力向上に向けた研修等に体系的に取り組んでいるか
(4) 学修成果	・在学中ならびに卒業後の評価、評価の把握がなされているか ・教育目標、人材育成像に向けた成果になっているか
(5) 学生支援	・総合的なキャリア形成に向けた支援体制があるか (進路支援、経済支援、健康管理、課外活動、保護者連携等)
(6) 教育環境	・教育目標、人材育成像に向けた教育環境が整っているか
(7) 学生の受入れ募集	・教育理念や人材育成像、教育活動や学修成果等について、正しく理解されるような情報発信が行われているか
(8) 財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているか ・財務について会計監査が適正に行われているか
(9) 法令等の遵守	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・自己点検評価の実施と改善に取り組んでいるか
(10) 社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した貢献活動を行っているか ・学生のボランティア活動、地域活動への参加を推奨、支援しているか
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

自己理解やキャリアプランニングなどの指導レベルの向上に取り組む必要性についての議論から、内部外部の研修を活用した教職員の指導力向上に取り組んでいる。また、学生自身が人生の岐路において決断できる力を鍛えることの重要性に関する指摘をふまえ、決断や失敗を疑似体験できるような機会を設けることについて、学校として意識的に取り組んでいくことを確認している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
蔵本 俊秀	株式会社IBCソフトアルファ	2023年4月～2025年3月(2年)	企業等委員
小野 直人	株式会社北日本銀行	2023年4月～2025年3月(2年)	企業等委員
渡辺 炎如	有限会社哲学堂	2023年4月～2025年3月(2年)	企業等委員
菊池 那紀	エクナ株式会社	2023年4月～2025年3月(2年)	卒業生
外川 綾香	岩手インフォメーション・テクノロジー株式会社	2023年4月～2025年3月(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <http://www.mclnet.jp/information/>

公表時期: 毎年度9月頃

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校関係者として企業等から参画いただいた委員を含む学校関係者評価委員会を設置して、実務に関する知見を活かして教育目標や教育環境等について「自己点検・評価」の結果に基づく評価を実施し、その評価結果を教育活動その他の学校運営の改善に活かしていく。これを定期的に行うことにより、地域で必要とされる人材の育成のための教育の質の向上、学生支援、卒業後支援、社会活動等の充実とともに、健全かつ安定した学校運営を図ることを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校ホームページ「学校案内」「情報公開」 募集要項「学校の概要」
(2) 各学科等の教育	学校ホームページ「学科コース」 入学案内パンフレット「学科紹介」ページ
(3) 教職員	入学案内パンフレット「教職員紹介」ページ
(4) キャリア教育・実践的職業教育	学校ホームページ「資格・就職」、「学科コース」 入学案内パンフレット「MORIJOBIの魅力PickUp」「実績トピックス」 「就活サポート」「学科紹介」の各ページ
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校ホームページ「学校案内」、「ニュース&トピックス」、「よくある質問」 入学案内パンフレット「MORIJOBIの魅力PickUp」「実績トピックス」 「MCL共通カリキュラム」「イベントカレンダー」の各ページ
(6) 学生の生活支援	学校ホームページ「入学・学費(学生寮)」 募集要項「指定寮について」
(7) 学生納付金・修学支援	学校ホームページ「入学・学費(学費・学費支援)」 募集要項「出願から入学手続きまで」、「学費サポート」
(8) 学校の財務	学校ホームページ「情報公開(財務諸表等)」
(9) 学校評価	学校ホームページ「情報公開(自己点検・学校関係者評価の結果)」
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.mclnet.jp/information/>

公表時期: 毎年度9月頃

授業科目等の概要

(工業専門課程情報システム科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		情報システム概論	コンピュータシステムの基礎知識と、その実社会での役割について学習する。また、コンピュータの原理や仕組みについて、ハードウェアとソフトウェアの側面から学習する。	1通	300		○			○		○		
2	○		高度情報概論	すべてのソフトウェアの基盤であるオペレーティングシステム の概念や諸機能と実現方式を理解し、さまざまなソフトウェアを設計・開発できるようになるための基礎を身につける。	1通	60		○			○		○		
3	○		情報システム演習Ⅰ	ビジネスソフトの基本的な操作方法を学習する。また、ホームページを作成するための言語やレイアウトの基礎を学習することで、実践的な実習の土台作りを目指す。	1通	90		△	○		○			○	
4	○		ビジネス教養Ⅰ	社会人として必要となる基本的な計算能力・読解力を一般教養問題、SPIなどを通じて学習する。	1通	40		○	△		○		○	△	
5	○		キャリアデザインⅠ	業界・企業・職種研究などを行い、就職活動に備えた実践的な授業を基本とする。また、企業の専門職を招いた職業講話により業界知識の向上を図る。	1通	60		○	△		○		○		○
6	○		情報システム演習Ⅱ	Officeソフトにおけるマクロ文書や差込文書、高度な関数、データ分析、プレゼンテーション資料、データベース等の作成について学習し活用力を身につける。	2通	120		△	○	△	○			○	
7	○		システム開発演習Ⅰ	データベースやネットワーク、システム開発手法について概略を学ぶ。また、UMLモデリングやデータベースについては詳細に学習する。	1通	300		△	○		○		○		
8	○		システム開発演習Ⅱ	これまでに学習したシステム設計やシステム開発などの専門知識を活かし、アプリケーションなどの開発に関する基本演習を行う。	2通	210			○		○		○		
9		○	システム開発実践	これまでに学習したシステム設計やシステム開発などの専門知識を活かし、学生生活の集大成としてアプリケーションなどの開発研究を行う。	2通	330			○	△	○		○	△	○
10		○	テーマ別専攻	テーマを設けてWebアプリやWindowsアプリ、組込システムの開発、企画研究、プレゼンを行う。	2通	90			○	△	○		○	△	○
11	○		ビジネス教養Ⅱ	社会人として必要となる基本的な教養を高めるべく、時事問題や税務知識などについて学習する。	2通	40		○	△		○		○	△	

12	○		キャリアデザインⅡ	グループワークなどを通じて協働力、傾聴力、発信力の醸成や、学生が自己についての理解を深め、人生観・職業観を確立することを旨とする。	2 通	60		△	○		○	○		
13		○	分野別研究Ⅰ	専攻分野の専門性以外の分野の授業を選択できる。幅広い知識・技術を学ぶことで、多様化する社会ニーズに対応できる力を身に付ける。	1・2 通	30		△		○	○	○		
14		○	分野別研究Ⅱ	専攻分野の専門性以外の分野の授業を選択できる。幅広い知識・技術を学ぶことで、多様化する社会ニーズに対応できる力を身に付ける。	1・2 通	30		△		○	○	○		
合計						12 科目				1700 単位 (単位時間)				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	本校教育課程において1年間850単位時間以上、合計1,700単位時間以上を取得し、校長が教育課程を修了したと認めた者。	1学年の学期区分	2期
履修方法：	必修科目は学科在籍者全員が履修し、選択必修科目については、レベルやテーマ別に分けての並行履修となる場合がある。自由選択科目は、希望者のみ科目登録し履修する。	1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。